

# たぐすい

TAKUSUI  
No. 771

1  
January, 2021

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



柳原十日戎祭 (神戸市兵庫区)

## 令和3年 年始のご挨拶 JF兵庫漁連 通常総会開催

《今月の海上安全標語》～ 安全祈願 ～

新年は新たな気持ちで、安全操業を誓うことが大切です。

「1年間、事故を起こさない」という意識をしっかりと持って、今年一年の安全を祈願してください。

**安全は 年の初めの 誓いから** では、今年も安全操業で!



# 危機を乗り越え、 ポストコロナの新時代に挑む

兵庫県知事

## 井戸敏三

新年あけましておめでとうござい  
ます。

昨年は、新型コロナウイルスとの戦  
いの年でした。しかし、未だ終息には  
ほど遠い状況です。

一方、コロナ禍は社会を変革する契  
機ともなりました。県民とともにこの  
危機を乗り越え、地域創生やデジタル  
化に力強く取り組み、ポストコロナ社  
会を先導する活力あふれる兵庫をめざ  
します。令和三年は本格的に歩みを進  
める年とします。

第一は、新型コロナウイルス対策の充実。自  
宅療養ゼロを堅持しつつ、入院病床や  
宿泊療養施設を十分に確保します。マ  
スク着用の徹底、検温の実施、外出抑  
制、感染リスクの高い施設の利用を控  
えるなど、家庭、職場、施設へウイル  
スを持ち込まない地道な取組が何より  
大切です。一人ひとりの行動が大切な  
家族や友人、仲間の命を守ることに  
なおります。是非、ご協力をお願いし  
ます。

す。兵庫と東京を専用回線で結び、情  
報ネットワークにより東京圏からの企  
業誘致も促進します。農林水産業のス  
マート化も急務です。都市部から地  
方への潮流を捉え、兵庫への呼び込  
みを図ります。

第三は、安全安心の基盤強化。コロ  
ナ禍でも自然災害は待ってくれませ  
ん。地震・風水害に備える安全な県土  
づくりを進めます。県民が安心して暮  
らせる福祉の充実も強化します。

第四は、ポストコロナも見据えた兵  
庫の未来づくり。「二〇三〇年の展望」  
を具体化する取組を進めるとともに、  
二〇五〇年頃を目標年次とする新ビ  
ジョンの策定に向けた検討を加速させ  
ます。

我々は、戦災、様々な自然災害など、  
幾度も危機を乗り越えてきました。  
阪神・淡路大震災もそうでした。  
再び、県民の叡智を集結して、兵庫  
の新時代とともに築き上げるため、挑  
戦していこうではありませんか。

コロナ禍を乗り越えていく県民の

ひたむきな歩み夢をめざして

## CONTENTS

No.771 January, 2021

- 2 新年のご挨拶
- 7 第45回 JF兵庫漁連通常総会
- 8 兵庫県水産賞 受賞者決定  
乾のり入札会(共販) 始まる
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

### 「柳原十日戎祭」(神戸市兵庫区)

十日戎(とおかえびす)とは、毎年1月10日に漁業の神、  
商売繁盛の神、福の神として親しまれる「七福神」の「戎(恵  
比寿)」様をお祭りする祭礼です。十日を本戎、前日を宵戎、  
翌日を残り福と称し三日間を通して行います。関西では「え  
べっさん」の名称で広く親しまれており、「商売繁盛、笹もっ  
てこい」という掛け声がとても有名です。両手に釣り竿と  
鯛を持ち微笑むえべっさんは、遠くの海からやってきて人々  
を幸せにするといわれています。

# 新年のご挨拶



## 年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会  
代表理事 会長

田沼 政男

新年明けましておめでとうございます。  
年頭にあたり、県内JF組合員の皆

様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

我々漁業者にとつては、イカナゴやアサリ等の水産資源の底辺を支える資源の激減により、大きな不安がついついでいる中、5年をかけて昨年兵庫県水産技術センターによって、イカナゴを対象にして栄養塩類低下が魚類生産の減少につながっているプロセスを示すことができたことは大変な喜びでした。この結果は「豊かで美しい瀬戸内海の再生」の実現に向けた着実な歩みを進めている多くの漁業関係者に対し、力強い後押しとなっております。また、新型コロナウイルスの影響により、多くのイベントが中止・延期を

余儀なくされ、本来であれば今年明石市にて開催予定となっていた「全国豊かな海づくり大会兵庫大会」も

次年度へ延期となりました。本大会は、1981年から毎年開催されており、

1982年の第2回大会以来、兵庫県において全国初の2度目の開催となります。1年間改めて準備をする期間ができ、より良い大会となるようJFグループ一丸となり、関係各所と連携をとりながら準備を進めてまいりたいと思っております。

さらに、昨年12月に「水産業協同組合法」、「漁業法」の改正が施行され、資源管理・漁業許可等に対する省令が変更されました。我々としては、JFグループの次期運動方針に対応すべく、昨年12月に開催したJF組合長会議において承認していただいた、兵庫

県版運動方針アクションプランを実践し、本県水産業が抱える諸問題について解決できる体制づくりを行ってまいります。

「丑年」は、これからの発展が起きる前触れのための我慢の年と言われていると思います。現在も猛威を振るっているコロナウイルスに対して、新たな生活様式を求められており、気を緩めるとなく感染対策を心がけましょう。

最後に、本県漁業が活気に溢れる一年となるよう皆さまのご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。





## 年頭のご挨拶

なごさ信用漁業協同組合連合会  
経営管理委員会 会長

### 中川 照央

新年あけましておめでとうござい  
ます。  
年頭にあたり、会員並びに組合員の皆  
様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
昨年、まさに新型コロナウイルスの  
脅威に晒される1年となりました。  
影響は働き方やライフスタイル等多岐  
に及び、これまでの当たり前の暮らしが  
一変しました。

国は経済回復と感染防止の両方を睨み  
ながらの対策を求められておりますが、  
「新しい生活様式」が日常と思えるよう  
になって初めて終息の兆しが見えてくる  
に違いありません。

苦難の先には希望が開けることを信  
じ、今一度気を引き締め、ともにこの難  
局を乗り越えてまいりたいと存じます。

さて、昨年は6月の通常総会において  
定めた中期経営計画（令和2年度～令和  
4年度）に基づき、「持続可能なビジネ  
スモデルの構築」と「広域合併の取組み」  
を重点目標に置き進めてまいりました。

「持続可能なビジネスモデルの構築」に  
掲げる「やりたいこと」としての「漁家  
経営支援」を実現するために、二つの「や  
らねばならないこと」が必要となります。  
一つ目である事業量の伸長について  
は、目標とする水準を大きく上回り推移  
しております。

二つ目の低コストによる店舗運営形態へ  
の移行については、利用者の皆様のご協力

のもと、昨年7月に但馬・  
淡路地区、10月には神戸・  
明石地区で従来の終日営  
業から曜日限定営業へ体  
制転換を完了しました。  
サービス低下は否めな  
い面もあろうかと存じま  
すが、涉外体制による補完を強化してま  
いりますので、ご理解の程お願い申し上  
げます。  
迅速性が求められるコロナ対策について  
は、最大限の金融機能の発揮と漁業経営維  
持を主眼に対応にあたっております。



兵庫県漁業共済組合  
組合長理事

### 新年のごあいさつ

### 川越 一男

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
新春にあたり、皆様の本年のご多幸を  
心よりご祈念申し上げます。

昨年を振り返りますと、年明けからの  
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受  
けて、新たな生活様式が求められるなど、  
これまでに経験したことがないような生  
活を送らなければならぬ一年となりま  
した。水産業界においても水産物の急激  
な需要の減少、魚価の下落等、漁業経営  
はもちろん、水産業に関わる多くの方々  
や漁村地域に現在もお多大な影響を及  
ぼしております。7月には「令和2年7月  
豪雨」が発生し、九州や中部地方を中心  
に河川の氾濫や土砂災害などの甚大な被  
害が起きました。さらに、環境異変等を  
主因とした不漁が恒常化しており、全国

10月に新設した「融資部兼漁家経営相  
談室」を中心に感染拡大で水揚減少の影  
響を受けた漁業者等の資金繰り支援はも  
とより、余剰在庫を抱えた水産加工業者  
の商材をネット販売する企業や日本食を  
海外輸出する企業を紹介するなどビジネ  
スマッチングを活用した支援も実施いた  
しました。

また、2022年4月を目標期日とす  
る「西日本ブロック信漁連広域合併」に  
ついては、実質的な合併実務を担う合併  
準備室を発足させ、本会の各種制度の展  
開を基本に本格協議を開始しております。

ではさんま、イカ、さけ  
の外、当県ではイカナゴ  
に続きチリメン等の不漁  
が相次ぐ厳しい一年とな  
りました。

このようななか、令和  
2年度の「ぎよさい」と  
「積立ぶらす」の引受・支払実績はいず  
れも過去最高となった令和元年度を上回  
るペースで推移しており、漁業経営を守  
る「ぎよさい」と「積立ぶらす」が果た  
す重要な役割が改めて広く認識され、漁  
業者からの期待はかつてないほど高まっ  
ております。昨年4月から新たなスロー  
ガン「令和の備えも『ぎよさい』と『ぶ  
らす』を掲げて普及推進運動を展開し  
ており、漁業者のセーフティネットとし  
ての機能を発揮すべく、今年度の目標で  
ある共済限度額で370億円、共済金額  
で333億円、漁業者積立額で約9億円  
の達成に向けて引き続き普及推進に努め  
て参ります。

今年度は延期となっていた東京オリ  
ンピック・パラリンピックが開催される予

先ずは各県域と危機感を共有し、そのう  
えで、現行信漁連での徹底的な合理化と効  
率化を前提として合併に臨み、合併を機と  
した事業変革と組織変革により経営基盤  
と財務基盤を強化することができるとい  
うかを見極めることといたしております。  
最後に、「愛される浜の金融機関」確  
立を目指し、本年も役員一丸となって  
業務に取り組んでまいり所存ですので、  
倍旧のご指導とご鞭撻をお願いすると  
もに、皆様方のますますのご健勝、ご活  
躍をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさ  
せて頂きます。

定です。新型コロナウイルス感染症の早  
期収束を願うとともに、一刻も早く平穩  
な日常を取り戻したいものです。また  
甚大な被害をもたらした東日本大震災か  
ら今年で10年を迎えます。改正漁業法の  
施行を受けて、「漁業収入安定対策事業  
の機能強化と法制化」が引き続き検討さ  
れる予定ですので、漁業共済団体として  
漁協系統・漁業者団体の皆様と緊密に連  
携し、今後とも漁業者の方々から自然災害  
対策・経営安定対策として「ぎよさい」  
と「積立ぶらす」を活用していただける  
よう、より良い制度の実現に向けて取り  
組んで参ります。

最後になりますが、新型コロナウイルス  
感染症の脅威のなか、普及推進にご理  
解・ご協力頂いている漁業関係者の皆さ  
まに厚く御礼申し上げます。新たな一年  
が災害のない豊漁・豊作となることを祈  
念するとともに、漁業経営を守る「ぎよ  
さい」と「積立ぶらす」のより一層の浸  
透・定着に努めて参りますので、本年も  
皆様の変わらぬご支援ご協力を賜ります  
ようお願い申し上げます。



兵庫県農政環境部農林水産局  
水産課長

## 新しい年を迎えて

長島 浩

新年明けましておめでとうございます。皆様方には清々しく新年をお迎えのこ

とと心よりお喜び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により国の内外で大きく混乱した一年でした。4月7日の緊急事態宣言により、水産業界においても飲食店の休業に伴う水産物の需要低迷や魚価の下落等大きな影響を受けました。

県では水産物の需要回復と販売促進を図るため、小中学校の給食への県産水産物の提供や、インターネット販売等を推進するとともに、経営に影響を受けた方々を対象に、運転資金の無利子化措置等の対策を講じたところですが、コロナ禍による影響は未だ先が見えない状況です。

また、県下各地で毎年開催されている恒例のイベントもほとんどが中止となり、さらには、令和3年に兵庫県で開催を予定していた第41回全国豊かな海づくり大会も令和4年度に延期となりました。

さて、昨年12月1日に

は改正漁業法が施行さ

れ、適切な資源管理と水

産業の成長産業化を推進

するため、新たな漁業許

可制度や資源管理システ

ムが導入されました。今後、持続的な水

産業の実現に向けて、関係機関と協力し

ながら運用してまいります。

また、県では「豊かな海の再生と水産

業・浜の活性化」を目指し、水産資源の

維持・増大を図るため、漁場の整備や種

苗の放流、海底耕うん等に取り組んでき

たところですが、現在、県施策の新たな

指針となる「ひょうご農林水産ビジョン

2030」の策定作業を進めております。

ブランド力の強化、AIやICTといっ

た先進技術の急速な進展や情勢の変化等

を踏まえ、「豊かな海と持続可能な水産

業の実現」を目指した施策を積極的に展

開してまいりますので、今後ともご理解

とご協力をお願い申し上げます。

新たな年の始まりにあたり、本県水産

業が益々発展し、未来に向かって力強く

前進するとともに、新しい年も平穏で安

全な操業が続き、豊かな海の幸に生まれ

ますことを心より祈念いたしまして、新

年のご挨拶とさせていただきます。

でした。一方、水産業界

では改正漁業法が昨年12

月1日に施行され、数量

管理にかじを切ると共に

養殖業を核に水産業の成

長産業化を推し進めると

いう新たな時代に向けた変革の幕開けと

なりました。新たな資源管理に向けた

「ロードマップ」が公表され、不安を抱

かれる漁業者の方も多いと思います。研

究機関として、国・関係府県と連携を密

にし、漁業者の皆さまが納得できるよう、

この課題に取り組んでまいります。

このような中、当センターにおいては、「第5期中期業務計画(令和3～7年度)」

を策定中です。「品質向上や新価値の創

出によるブランド力の強化」等4つの重

点化方向を掲げ、本年も様々な課題に取

り組んでまいります。

瀬戸内海では、詳細な動物プランクト

ンを中心とした調査を実施し、適正な栄

養塩環境を検証していきます。また、イ

オンビームによる高水温環境に適したノ

リ新品種早期確立、マガキの貝毒規制期

間の見直し等に向けた調査、「閉鎖性循

環飼育システム」を活用した高温耐性・

高成長ニジマス系統作出のための親魚養

成と種苗生産等について推進していきま

す。

日本海では、「但馬沖ホタルイカの漁

場形成」、「ベニズワイガニの高鮮度流通

技術の開発」、「イワガキの採苗方法の開

発」、広域に回遊・分布する資源につい

ては、国等と連携しながら評価と動向予

測等を進めます。

令和4年に開催される全国豊かな海づ

くり大会兵庫大会の機運醸成に向けて、

情報発信にも努めますので、ご支援とご

協力を賜りますよう、よろしくお願い申

し上げます。

兵庫の海が豊かな恵みをもたらすとと

もに、皆さまにとって実り多い年となり

ますよう祈念申し上げて、新年のご挨拶



## 年頭のご挨拶

兵庫農政環境部農林水産局  
漁港課長

### 前川 広治

新年あけましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

近年、全国で自然災害が相次いでいます。昨年7月の豪雨や9月の台風10号により、各地に被害が生じました。幸い県下の漁港・海岸施設では大きな被害はありませんでしたが、いっどこで起きるかわからない自然災害の危険性を痛感し、漁港・漁村の基盤整備の必要性を改めて認識しました。

こうした中、兵庫県では、平成27年6月に策定した「津波防災インフラ整備計画」、平成31年3月に策定した「日本海津波防災インフラ整備計画」に沿って耐震・耐津波対策を推進しており、加えて昨年6月には、平成30年の大阪湾沿岸における浸水被害を踏まえた「兵庫県高潮対策10箇年計画」を策定し、効果的、効率的な高潮対策を推進しています。

このほか、漁港施設については、漁業生産活動の効率化・省力化を図るための整備や機能を保全する老朽化対策、航路・泊地の維持対策などに計画的に取り組んでいます。

さらに、浜の活力再生プランに掲げる

所得向上に向けた取組として、ノリ養殖業の収益性向上・競争力強化を図る施設の導入や鮮度保持施設等の共同利用施設の建設など、国の補助事業

を最大限活用し、支援に努めています。

現在、本年度末に向けて、県の農林水産業・農山漁村に関する各種施策の基本となる「ひょうご農林水産ビジョン2025」の改定を進めています。今



## 新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会  
代表理事会長

### 岸 宏

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年は、これまでのJFグループ系統運動の中でも経験したことのない厳しい1年でした。従来と異なる回遊行動や資源の減少等による記録的不漁、新型コロナウイルスの感染拡大等を受けて、浜では産出額が落ち込み、生産の基盤となるJFの経営においても売上高、営業利益が減少し、影響等の長期化が懸念されております。

そのため、JFグループでは、漁業者が安心して生産活動を営み、産地市場

後とも、このビジョンに沿って、水産物の安定的かつ持続的な供給に寄与するよう、より一層安全で活力ある漁港・漁村づくりに取り組んでまいりますので、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年も安全な操業が続き、また、皆様方にとって実り多い年となりますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

### 宏

要路に強く要請し、その結果、要望事項を網羅する3,065億円と3年連続で3,000億円を超える予算を勝ち取る

ことができました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

本年は、昨年12月の改正漁業法の施行を受け、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革がいよいよ始まります。改革を成功させるためには改革の実践者である浜の漁業者が理解し、納得することが重要ですので、海面利用制度や新たな資源管理などの具体的実践にあたっては、漁業者・JFグループが国や都道府

県とこれまで以上に十分な協議を行ったうえで、一体となって取り組み、水産政策の改革が実効性あるものとなるよう努めて参ります。

本年度から取り組んでいるJFグループの運動方針にかかるアクションプランにおいても、資源管理を前提とした循環型漁業の構築を目指し、漁業者の取り組みをJFが支えるべく、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革などに取り組み、浜プランの後押しや浜の構造改革を実現して参ります。また、昨年開設した産直通販サイト「JFおさかなマルシェギョギョいち」を活用していただくことで、コロナ禍で消費が落ち込んだ国産魚介類の消費拡大の一翼を担って参ります。

依然として、外国船による違法操業問題、震災復興などの課題が山積しておりますが、漁業者が長きにわたり希望を持って漁業を営めるよう今後も鋭意活動していく所存です。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましては、これまで以上に英知と総力を結集していただき、漁業の成長産業化に向けた浜の構造改革への引き続きのご理解・ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地で活躍の皆様のお作業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたします。新年のご挨拶といたします。



## おかげさまで70周年

全国共済水産業協同組合連合会  
代表理事会長

### 福原 正純

よって、将来想定されている大規模自然災害にも万全を期す組織にしていただきました。これからも、「組合員に万全な保障を提供し、付加掛金収入で漁協経営を守り、

新年あけましておめでとうございませす。年頭にあたり、浜の皆様様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素よりJF共済に格別のご高配を賜わり、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、台風等の災害および新型コロナウイルス感染症等により被害に遭われた全国各地の漁業関係者ならびに地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染拡大という予期せぬ甚大な災いが世界中で猛威を振るい、急速に冷え込んだ需要や魚価の低下に加え、頻発する自然災害、人口の減少や高齢化に伴う漁業従事者の減少、地球温暖化はじめ海洋環境の変化などによる不漁、不安定な国際情勢など、JF共済にとってはますます厳しい状況が続いております。

また、昨年12月1日には改正漁業法と改正水協法が施行され、漁業は大きな変革期を迎えました。JF共済もこの動きに対応し、果たすべき役割を全うしてまいります。

JF共済は今年1月、創立70周年を迎えます。

思い起こせば、漁業者からの一通の手紙をきっかけにスタートしたJF共済は、浜の皆様や各地域のJFのご協力に

それにより食料産業である漁業を守る。」といったJF共済の理念を胸に刻み、一歩ずつ前進してまいり所存です。

2020年度からは「浜の安心を未来へ」ひろげよう共済の輪へJF共済3か年計画を開始し、JF共済をより安心して利用いただくため、全漁家を訪問し、保障点検をしながら生涯生活保障設計を提案する「浜のあんしんサポート運動」を展開し、JF共済の輪の拡大を目指し、取り組んでまいりました。2021年度は70周年を機に、浜の皆様とのニーズにより応えていくため、これまでJF共済で保障できていなかった介護分野を中心に、新しい共済の開発を進めております。こうした取組みを通じ、最優先課題である事業量目標の達成に向け、各都道府県のJF共済推進本部を中心に、取り組んでまいります。

また、15年ほど前に打ち出した共水連マネジメント改革実施大綱を見直し、JF事務負担の軽減と利用者サービスの向上を目指す業務改革と、共水連内部のガバナンス強化を目指す組織管理改革の2本建てで進めていくこととし、着実に実行してまいります。

浜の一年が明るく賑わいますよう祈念しますとともに、JF共済に引き続きご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

# JF兵庫漁連 第45回 通常総会 開催



JF兵庫漁連は12月8日(火)、神戸市内のホテルにおいて、第45回通常総会を開催しました。

開会にあたり、田沼会長が「45期の本会事業については、最重要課題である、豊かな海の再生に向けた取り組みにおいて、要請活動の結果、海域における窒素、リン濃度の下限値を設けることを盛り込んだ県条例の改正がなされるなど、漁業者自身も取り組みの効果を少しずつ実感できるようになってきたと考えています。引き続き、豊かな海の再生のため、ご協力をよろしく願います。新型コロナウイルス感染症の影響により、我が国経済は大きく後退しておりますが、ノリ養殖が好調で

あったことに加え、流通加工事業が軌道に乗り始めたことで、計画を上回る結果となり、思い切った配当を行うための剰余金処分をご提案させていただきます。これもひとえに、会員の皆様方のご協力、ご支援のおかげと、厚く感謝申し上げます。」と挨拶をし、続いて来賓代表として、県農政環境部農林水産局萬谷局長から祝辞がありました。

第45期の事業実績は、高値相場に支えられ、全国2位の結果を残せたノリ養殖や、過去最高の漁獲金額となった松葉ガニ漁など好調な漁業のもと、各事業で計画を上回り、事業総取扱高280億1千4百万円、経常利益2億円(計画対比1億7千万円増)となりました。45期事業報告、46期事業計画等、上程した7議案は全て可決承認されました。46期においても、漁業者が安心して沖に行けるよう、役員一同今後引き続き、漁業の発展に取り組んでまいります。

また、同日、通常総会の前に開催した「兵庫県JF組合長会議」については、「JFグループ新運動方針に係る県域アクションプランについて」、「3団体共通役員制の廃止について」が審議され、両議案とも原案どおり(共通役員制は2021年12月をもって廃止)承認されました。(文:JF兵庫漁連)

## 県農林水産業の功労者表彰 “令和2年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定



受賞者の皆様（前列 左から磯部様、濱邊様、西條様ご夫妻）

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、令和2年12月17日（木）県公館（神戸市中央区）で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF室津 磯部公一さん、JF富島 西條 利幸さん、JF浜坂 濱邊 希夫さんの3名の方が受賞されました。表彰式では井戸 敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。

氏名	所属	功績内容
いそべ きみかず 磯部 公一	JF室津	貝類養殖業の振興と農水産物の加工利用等による地域の活性化に貢献
さいじょう としゆき 西條 利幸	JF富島	のり養殖業の振興とマダコの資源管理の推進に貢献
はまべ まれお 濱邊 希夫	JF浜坂	但馬地区の沿岸漁業の振興と漁業秩序の維持安定に貢献

（敬称略）

## 2020年度 乾のり入札会（共販）が始まる

本格的な冬の到来を感じさせる季節となり、全国各地ではのり入札会（共販）が始まっています。

全国有数ののり生産量を誇る兵庫でも、JF兵庫漁連（田沼政男会長・JF林崎）が、12月13日（日）から14日（月）に亘り第1回共販をJF兵庫漁連の流通センター（加古郡播磨町）で開催し、のり入札商社33社の約80人が集まりました。例年は見本ののりを手に次々に品定めをするなど、共販会場は活気に包まれますが、今年は新型コロナウイルス感染症対策として、見学者の来場を制限し、共販前日から見附を開示する等、共販会場での3密防止を図り開催されました。

また、緊急事態宣言等の発令により、来場が困難となった場合でも、オンラインを利用してのり共販に参加出来るシステムを導入しています。

この日挨拶に立ったJF兵庫漁連 田沼 政男会長は「本年度は全体的に栄養塩が少なかったために生産が遅れています。今後の生産に全力を注ぎたい。」と挨拶しました。続いて、兵庫海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長（松谷海苔株式会社）は「コロナ対策のパーテーション設置や遠隔地からのオンライン入札など、兵庫は期待に応えてもらっている。商社としては在庫を抱えた中での共販であるが、しっかりと買付けたい。」と抱負を述べました。

今漁期は全14回の入札会が予定されており、最終共販日は5月8日（土）となります。いよいよ始まったのり養殖。今漁期の順調な生産と安全操業を祈念いたします。



（第1回乾のり入札会：結果）

共販枚数	2,907万枚
共販金額	3億0,849万円
平均単価	10円59銭



## 地域の高校生への 食農教育活動で 新たな商品を開発

JAみのりは、平成29年度から県立社高校生活科学科と共同開発プロジェクトを立ち上げ、地元農畜産物を使った新商品の開発に取り組んでいます。

JAでは、同校と連携しながら、広報誌で農産物の魅力を発信するなどの親交があり、さらに高校側の「生徒にさまざまな経験を積んでもらいたい」という思いと、JAの「特産物の魅力を伝えながら、食と農に理解がある人材の育成につなげたい」という思いが一致したことから、同プロジェクトが始動しました。

プロジェクトは毎年、JA特産開発センター職員と生徒数人がメンバーとなり活動しています。地元の特産物を地域内外に広くPRして地域活性化の一端を担うことと、地元の若い世代に地域の特産物に対する興味・関心を高めてもらうことを目的として、商品開発を行っています。

今年度は黒田庄和牛をたっぷり使ったミートソースの商品開発に取り組んでおり、生徒たちの思いや意見を中心に活動を進めています。JAは費用や継続可能性などの実務的な面からアドバイスをし、活動を支えています。

また、JAでは、農畜産物が生産される過程を伝えることも重要な食農教育活動であると考え、



商品開発のためにプロジェクトのメンバーで協議を行う

生徒の黒田庄牛の牛舎で生産者との交流や精肉加工場の見学も実施しています。

今後も、JAでは地域の食と農に根ざした組織として、より多くの若い世代に貴重な経験を積んでもらえる活動を継続していきます。

## 「保健・医療・福祉研究会」 講演会を開催

兵庫県生協連は、1991年から「保健・医療・福祉研究会」を設置しています。研究会では、長寿社会が進むなか、医療・福祉のあり方や生協が果たすべき役割について考えていこうとそれぞれの医療生協や購買生協から担当者が集まり、生協間での情報共有や研究テーマを決め、講演会や先進事例を学ぶ見学会を実施しています。

2020年度は、スウェーデンの介護事業の状況やコロナ禍における生協の役割について学ぼうと、12月2日(水)、大阪大学大学院 齊藤 弥生教授にお越しいただき「なぜ今、協同組合なのか？協同組合と地域包括ケア」と題して、ご講演いただきました。

第2次世界大戦以前から協同組合の活動が広まり、国民が主体となる経験を積んできたことで、福祉国家となったスウェーデンのコロナ禍の状況や超高齢社会において地域共生社会を支える生協、協同組合への役割や期待についてお話しいただきました。会場とオンラインで参加した会員生協の役員・職員にとって、今後の活動を進める意欲が更に高まる講演会となりました。



◀講演会は、対面(会場)とオンラインのハイブリッド型で行われました



齊藤弥生教授



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 太神楽と曲芸

◆鞠(まり)と撥(ばち)を使った古来からの曲芸を太神楽(だいかぐら)という。本来、伊勢大神宮で行われる神楽に由緒を持つ芸である。既に故人になったが、正月のテレビで海老一染之助・染太郎が頑張っていた。啞(くわ)え撥に土瓶を乗せクルクル回転させたり蓋を外したり、上手く決まると「おめでとうございます」と賑やかに演じていた。棒先で皿を回したり、鞠や升を番傘の上で回すのが初歩で、まず特訓をする。顔面に立つ竿の先へ茶碗を積み上げる芸、刃物を逆さまに数丁を立てハラハラさせる芸などがある。寄席で落語に堪能した時、色物として曲芸が演じられ、目覚しになつた。そして又落語を聴くのである。

◆東京の落語家による独演会で、内海英華が粋な三味線芸で、間を繋いでいたのが面白かった。「女道楽」と呼ぶそう。端唄や都々逸などを唄い、三味線の曲弾きが見物でマサに至芸といえた。三本の糸で豊かな音を奏でる三味線の源は、中国の三弦(サンシェン)という独特の弦楽器だ。それが沖繩の三線になり更に改良されて今に伝わったが、振動を伝える胴に猫の腹の皮や犬の背中皮を張る、三弦や三線にはニシキヘビの皮を使うという。津軽三味線は力強く弾くので、猫の皮は破れ易いために、少し分厚い犬の皮が使われていると言ふ。

◆伊勢や熱田神宮の神職が、各地へ厄払いの代参に出掛け獅子舞を奉納した。神社の境内や広場で、余興として演じた曲芸が各地を回るうちに、娯楽性の強い「江戸太神楽」として受け入れられて定着、大道芸がやがて舞台へ上がるようになった。江戸の末期の見世物小屋は、大いに人気があり隆盛を極めていたという。馬を使った曲芸やサーカスもどきの特殊芸を、大勢の人が楽しんだのである。異国から来たラクダや象を見ようと、遠路はるばる来る人もあったというが、今の動物園や水族館へ出掛けるようなものだろう。普段は目にしない珍しく奇妙な物を、近くで改めて見るのは楽しく嬉しい事だったのだと思う。

◆大きなコマを両手で捻って回し、それに曲芸をさせる。独楽が生きているように見事な芸を見せてくれる。太刀の刃上を回りながら独楽が渡ってゆく。観客は独楽の動きに瞳を集中させられる。曲独楽は一見の価値がある。独楽の歴史は古く、奈良時代の遺跡からも出土している。庶民の遊具として江戸時代爆発的に広まって、全国各地でさまざまな素材で作られた。今の独楽も形は大きくは違わない。旨く回転するのを善しとする。玩具の「拳玉」も一時は花街の座敷遊具に使われたというのだが、ヨーロッパから伝わった玩具である。

## 大輪田塾だより

### 「協同組合の歴史とコープ・ジュニア・センター」と「全国の海水魚養殖について」

令和2年12月15日(火)、新たに入塾した16期生を迎え、大輪田塾が開講されました。

第1部の「協同組合の歴史とコープこうべ」では、生活協同組合コープこうべ 教育学習センター 齋藤 優子氏が講師を務め、協同組合運動のはじまりや原則をはじめ、コープ神戸の歴史・生協の仕組みや、兵庫県漁連と連携した、ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)等について詳しい説明を受けました。

第2部の「全国の海水魚養殖について」と題した講義では、(一社)全国海水魚養殖協会 中平 博史専務理事より、全国の養殖海水魚の分布や養殖技術、魚のエネルギー要求量を計算した適正な給餌方法や魚病予防、流通経路や加工など養殖魚について幅広く説明されました。

塾生は、所属する漁業協同組合において、自らが出資者、利用者、運営者である等、協同組合の仕組みについて考えるきっかけになりました。また、天然魚の漁獲量が減少する中、安定供給できる養殖魚の重要性についての知識を得る有意義な講義となりました。



中平専務による講義の様子



齋藤氏による講義の様子